

## ● 新年バイリンガル特別講演会開催(幸せのための経済学)

1月23日一橋大学学長である蓼沼宏一教授を招聘して、国際交流部会による新年バイリンガル特別講演会が開催された。また英語通訳者は小林尚行さん(政策研究大学院教授)で日本人以外の人々にも理解できるように配慮された。

当日は43名の参加者を得て盛況であった。

質疑応答では目下注目の「食品横流し問題」とか「所得格差問題」などが出されたが、適格な応答があり、質問者も満足した様子であった。

演題は「幸せのための経済学」で、経済のグローバル化、人口の高齢化、環境問題などいろいろな問題を抱える現代社会に於いて「効率」と「衡平」をキーワードに人の福祉とは何か、人々の福祉を高めるために望ましい社会経済システムとは何かを話された。

冒頭、2010年のチリの鉱山落盤事故の例から経済問題のエッセンスとは何かを分かり易く説明され、地下700メートルの抗内に閉じ込められた33人の救出劇の成功事例は、限りある資源を優れたリーダーが分配ルールを示し、作業員たちもそのルールに従ったことが全員を助けた事由であった。



▲講師 一橋大学学長・蓼沼宏一(たでぬまこういち)教授



▲熱心に講演を聞く、地域のみなさん



▲国際色豊かな講演でした

その上、作業員間の結束も強く共同体の中で孤独でなく差別もなく尊重されていることなども重要な要素であった。

地上へ救出される時は肉体的、精神的に最も弱っている人が優先されたのである。

私たちも限られた地球環境・資源の制約の下で効率的に生産活動を組織し、規範に従って生産物を分配するという問題を解決しなければならない。

前述の「衡平」とは人々の状態・境遇に格差がなく、釣り合いがとれていることであり、その評価基準として比較のための何らかの福祉の指標が必要とし具体例を話された。その一方で「効率的」に目的に対して手段・方法に無駄のないことが必要であり、同量の資源を用いてより多くの財・サービスを生産する「分業の利益」、同量の財・サービスであっても人の嗜好や価値観に合うように分配する「交換の利益」を求めねばならない。

最後に「経済学は学んでみると面白い」と述べて講演会は終了した。

(国際交流部会/ 面田真和 / 広報部会)